

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	和歌山県
-------	------

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	清水町立八幡中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	10
生徒数	30	26	31	0	87	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「進んで学び、確かな力が身についた生徒の育成」 - 個性を生かす指導を通して -</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>*実施学年 全学年 1学年1学級の小規模校であるため</p> <p>*実施教科 全学年とも国語・社会・数学・理科・英語・体育の6教科</p> <p>*教科を選択した理由 小規模校であるため、非常勤講師以外の教壇教員の教科をもとに6教科で取り組むこととした。又、数学では、生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため、TT及び少人数授業とした。</p>
--

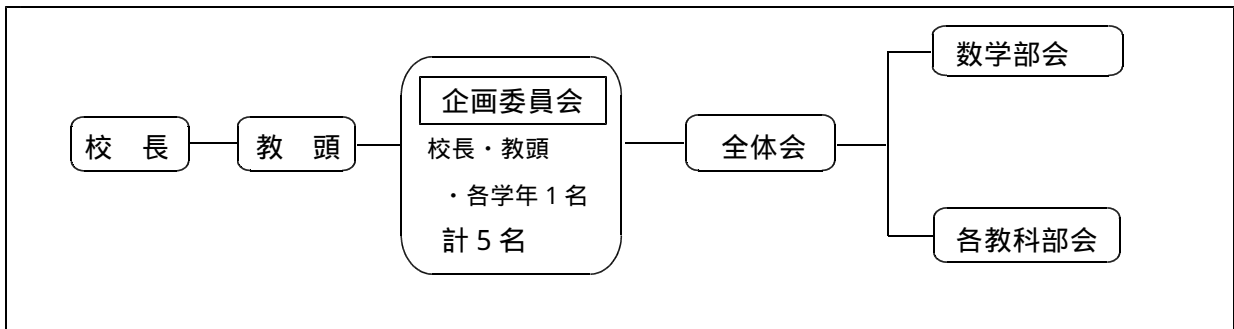
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「進んで学び、確かな力が身についた生徒の育成」 - 個性を生かす指導を通して -</p> <p>研究の見通し（仮説） 生徒が楽しく学校生活を過ごし、生徒と教師の心の信頼関係を築きながら、きちんとした学習規律や学習習慣を身につけさせ、学級・教科経営を進めることにより、学習の基礎基本や確かな学習内容を生徒一人ひとりに定着させることになる。</p> <p>15 全教師が、授業の工夫改善をめざし、わかる授業、楽しい授業づくりに取り組むことで、生徒一人ひとりが意欲に満ちた「確かな力」を育む学校になる。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 個に応じた指導のための方法、体制の研究。 (2) TT、少人数指導の効果的な指導の研究。</p>
--------	--

- (3) 評価を生かした指導の工夫。
- (4) 選択教科において、発展・補充の両面から捉え、多様な展開を図る。

平成 16 年 度	<p>テーマ 「進んで学び、確かな力が身についた生徒の育成」 - 個性を生かす指導を通して -</p> <p>研究の見通し（仮説） 生徒が楽しく学校生活を過ごし、生徒と教師の心の信頼関係を築きながら、きちんとした学習規律や学習習慣を身につけさせ、学級・教科経営を進めることにより、学習の基礎基本や確かな学習内容を生徒一人ひとりに定着させることになる。 全教師が、授業の工夫改善をめざし、わかる授業、楽しい授業づくりに取り組むことで、生徒一人ひとりが意欲に満ちた「確かな力」を育む学校になる。 教科授業の中や全校集会・生徒会活動等で発表力育成の取り組みを進めることにより、表現力を高めることになる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 個に応じた指導のための方法、体制の研究。 (2) TT、少人数指導の効果的な指導の研究。 (3) 評価を生かした指導の工夫。 (4) 選択教科において、発展・補充の両面から捉え、多様な展開を図る。 (5) 表現力についての評価方法の設定、及び教科を越えて表現力の育成を図る。
--------------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本年度より2ヶ年間学力向上フロンティアスクールの指定を受け、取り組んできたが、やっと今後の取り組みについての方向性が見えてきた段階であり、スタートラインに立った気持ちである。今年度、授業研を数回持ち、課題にせまる授業について協議した。このことにより、職員の研究意識も高まり、共通理解を図る上で大変有効であった。

特に、初めてTT授業を実施することになった数学科では、生徒の学習意欲の高まりや、学習の遅れを見逃すことが少なくなってきたことなど、少しではあるが成果が出てきている。

又、本校の独自性や特色などをどのようなかたちで発揮するかという点についても論議を重ね、今までも学校として取り組んできている表現力の育成ということで共通理解を図り、全教科において、伝える力を中心にした、表現力の育成に取り組むこととした。

特に授業の中で表現力を高める取り組みとして、国語科では班学習による授業形態を採り入れている。これは、全体学習の場に対し、少人数による班学習の場においては、生徒たちは見違えるように発言し、個人の読み取りを他の生徒とみがき合い、進化させる過程が見られるという一面を重視しているからである。

授業の進め方は、「学習課題の提示」「ひとり学習」「班のみがき合い」「全体学習」の4場面から成り立っている。又、1時間の授業において、この班学習を進めるのではなく、授業前には必ず生徒の国語係と授業の進め方について打ち合わせ、授業の中で国語係や当番制のコーチになる生徒が出来るだけ活躍できるように図られている。これらにより、相互評価が出来るとともに、より明確な視点のもとに個人の自己表現がしやすくなっている。

< 表1、T・T授業について(3年) >

県・学習に関する意識調査より抜粋	よく あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	まったく あてはまらない
勉強の内容がよく分かる。	35,5 %	54,8 %	9,7 %	0 %
わからないことなど先生に聞きやすい。	71 %	19,3 %	6,5 %	3,2 %
二人以上の先生に教えてもらえることで、その教科が、好きになってきている。	13 %	42 %	32 %	13 %

2. 今後の課題

個に応じた指導のための方法、体制の研究。

T T、少人数指導の効果的な指導の研究。

評価を生かした指導の工夫。

選択教科において、発展・補充の両面から捉え、多様な展開を図る。

表現力についての評価方法の設定、及び教科を越えて表現力の育成を図る。

以上の点について、2年次に向けての課題として取り組みを進めていきたい。

< 学校アンケート調査より >

本校生徒の学習・生活実態

本校生徒は、純朴・素直で指示されたことや、与えられた課題に対しては、よく努力し、真面目に取り組むことが出来る生徒であるが、下記アンケート結果からもわかるように、テレビの視聴時間が長く、それに対して、学習に積極的に取り組んでいる生徒や習慣化した家庭学習が少ない状況にある。

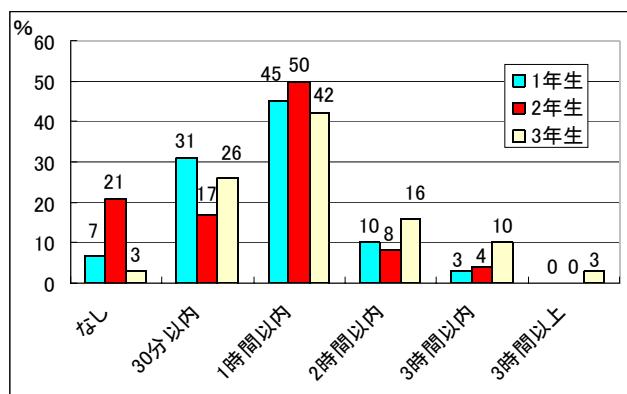
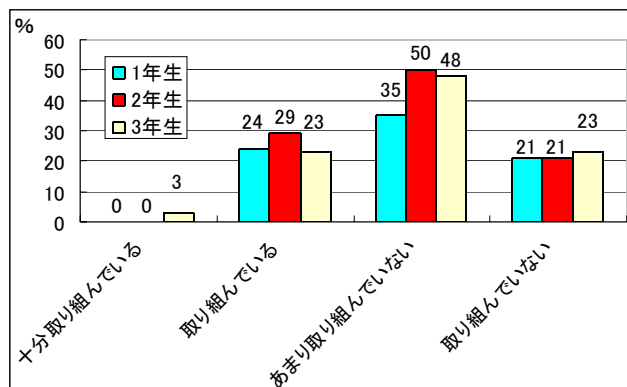
従って、生徒が主体的・意欲的に学ぶ力をつけさせることや家庭学習の習慣化を図ることが今後の課題である。

< 質問 >

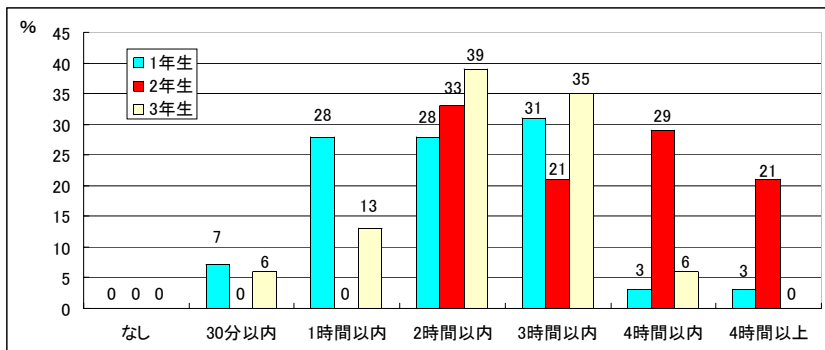
教科学習では、同じ事を繰り返し記憶することや計算することなどがとても大切になってきます。

そこで訊きますが、あなたは自分から進んで勉強に取り組んでいますか。例えば、宿題でもないのに自由研究に取り組んだり、授業の内容をノートに整理して記入したり、問題集などを使って学習に取り組んでいる。など

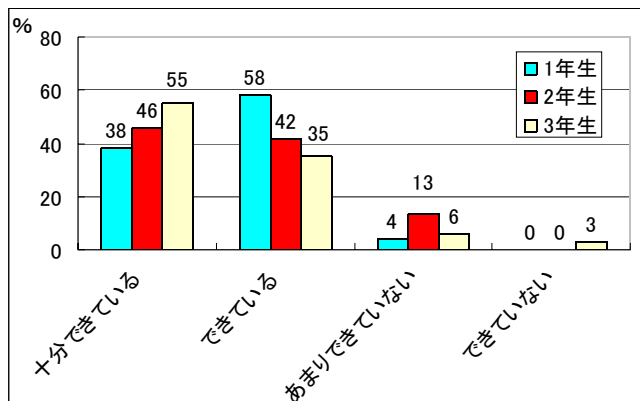
あなたは平日の家庭での学習時間はどれくらいですか。(月～金平均して)



あなたは平日のテレビの視聴時間はどれくらいですか。(月～金平均して)



あなたは登下校中に近所の人と出会ったとき、挨拶がきちんとできていますか。



学力把握のための学校としての取り組み

- * 観点別学習状況調査（数研式C R Tテスト）を実施した。・平成15年6月3日
1学年4教科を実施（国・社・数・理） 平成16年6月 実施予定
2・3学年5教科を実施（国・社・数・理・英）
- * 和歌山県基礎基本定着状況テスト（全学年、5教科）を実施した。
平成15年11月26日
- * 生徒の学習意欲、家庭学習等の実態調査のための「学校アンケート」を実施した。
平成15年12月24日

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 「学力向上フロンティアスクール」第1年次研究発表会（県下小中学校に案内）
平成15年11月6日実施
・研究冊子の作成
- * 「学力向上フロンティアスクール」第2年次研究発表会（県下小中学校に案内）
平成16年11月 実施予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|--------------|------------|------|-------|
| 【新規校・継続校】 | ✓ 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | ✓ 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | ✓ 少人数指導 | ✓ T・Tによる指導 | | |
| | その他 | | | |
| 【研究教科】 | ✓ 国語 | ✓ 社会 | ✓ 数学 | ✓ 理科 |
| | ✓ 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | ✓ 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | | ✓ 有 | 無 | |